

黄文雄プロフィール

1938年、台湾高雄県岡山鎮生まれ。1964年来日。1969年、早稲田大学商学部を卒業。1971年、明治大学大学院政治経済学科西洋経済史修士。現在評論活動のほかに、拓殖大学日本文化研究所客員研究員。

鋭い筆法で評論活動を続ける黄文雄は、そのダイナミックな歴史観と博覧強記の知識によって日本では文明論を展開し、台湾では哲学者としても知られている。執筆活動は日本と台湾を2本の主軸とし、言論活動はアメリカ、ヨーロッパでもなされている。

黄文雄の著述が大きな注目を集めたのは、アメリカで在米華人向けに出ている華字の新聞『台湾公論報』で2年にわたり連載されたもので、台湾で『中国之没落』とのタイトルで地下出版された。当時、きびしい言論統制がなされていた台湾では、独裁強権体制のもと、台湾の反体制運動の必読書となり、幅広い人々に読まれ、多くの台湾人に勇気を与えた。

東アジアにおける黄文雄の著作が出版されるたびに台湾、香港、中国に波及し、海賊版が出るさわぎとなっている。台湾では、1994年、『台湾人的価値観』（前衛出版社）で、巫永福評論賞および台湾ペンクラブ賞を受賞し、漢文著書役30余冊。現在も台湾の言論界では大きな発言力を維持し続けている。日本での著作は200冊を超える。